

岩手県釜石医療圏

在宅医療連携拠点：チームかまいしの取組み

チームかまいしアドバイザー

釜石医師会介護在宅診療部会 寺田 尚弘

釜石医療圏（釜石市・大槌町）

- 盛岡市の南東約100km、三陸復興国立公園のほぼ中央に位置する。
- 釜石市と大槌町からなり、圏域の人口は約5万人（平成25年10月末現在）。
- **釜石市**では基幹産業である鉄鋼業の衰退などにより、昭和38年の92,123人をピークに東日本大震災を経て平成27年11月末現在では、人口**35,876**人。高齡化率**36.1%**



本日本日お伝えしたいこと3点

0) チームかまいし以前

- なぜ医師会の拠点機能は終わりを迎えたか？
- 課題の構造と『場』についての考察

1) チームビルディング

- 連携推進事業の要
- その『建てつけ』

2) 具体的な連携手法とその実践例

- 8つの事業項目（タスク）へのアプローチ
- 実現への具体的な手法とその展開事例

チームかまいし以前の連携拠点：釜石医師会

(平成19年6月～24年6月)

- 平成19年6月

釜石・大槌地域在宅医療連携体制検討会がスタート

- ▶ 急性期病院の統合による県立釜石病院の医療機能の確保、負担軽減を目的に多職種の役割分担の明確化と連携体制の構築が進められた。

- ▶ 有機的な地域連携の構築の開始

＜目的と機能＞

- コンセンサスの形成
- 役割分担の明確化
- 顔の見える関係の構築
- 各職種の課題の抽出・解決



- 平成23年3月：東日本大震災

連携拠点：釜石医師会

地域医療に対するベースコンセンサスの形成

- 最大の成果：地域全体における中心的な合意事項ができたこと

「県立釜石（急性期）病院を守る」

- 地域で共有された連携のモチベーション

- ◆ 地域包括ケアシステムの視点からいうと、『**理念的統合**』

- 『**規範的統合**』の一部を構成する共通目的が形成された。

- 各医療機関、介護、福祉、行政も県立釜石病院を守るために何ができるかという視点から役割を分担されている。

役割分担された医療機関



釜石のぞみ病院



県立釜石病院



県立大槌病院



在宅医療



独立行政法人釜石病院



釜石厚生病院

0) チームかまいし以前

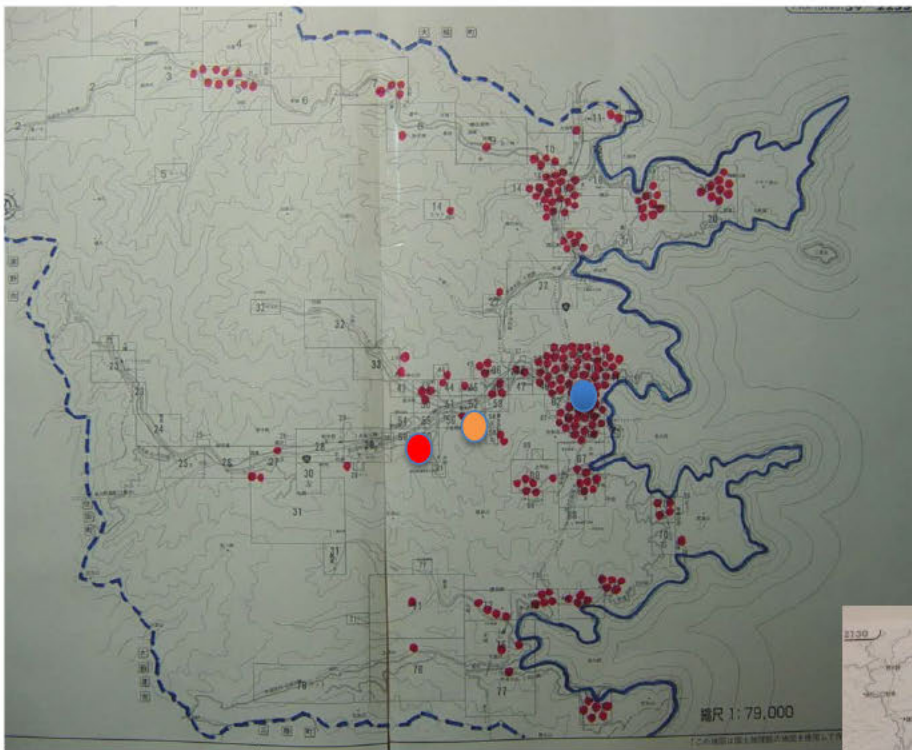
成果③

在宅医療が市内全域に

Phase II

平成23年2月

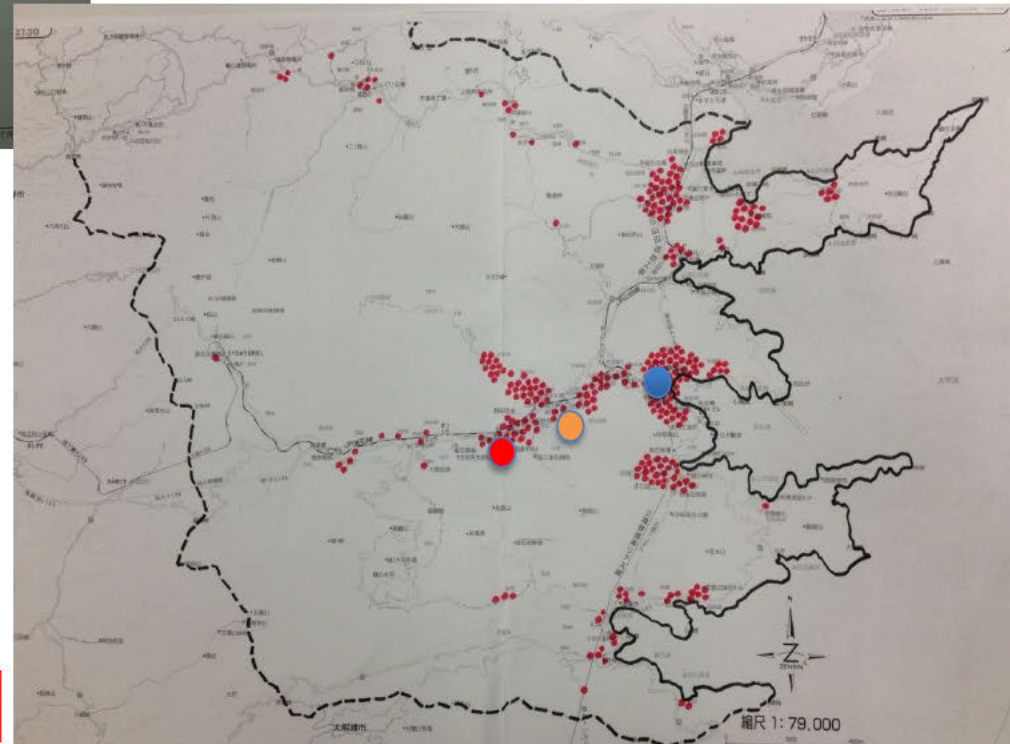
患者数：306名



Phase I
平成17年

患者数：202名

- 釜石市民病院
- 釜石のぞみ病院
- せいてつ記念病院
- 県立釜石病院



地域で在宅医療に対する理解が進んだ成果

連携拠点：釜石医師会

- 釜石医療圏の『医療崩壊の危機』を契機に、地域全体での役割分担の明確化とそれを繋ぐ連携が要請され、釜石医師会が地域連携全体の構築をコーディネートする拠点となった。
 - 地域の連携モチベーションを支える合意が形成され、医療機関のみならず、介護・福祉・行政などすべての職種が役割分担された。
 - 在宅医療もまた急性期・慢性期病院の退院患者の受け皿として役割を与えられ、地域連携全体の中で認知され市内に均等な患者分布が実現した。
- 医師会の役割として実現可能な連携の骨格を形成することができた。

顔の見える連携の場を設け、役割分担と連携の枠組みは出来上がったが、現場レベルの連携コーディネート、各職種の抱える課題の解決は遅々として進まなかった。

0) チームかまいし以前

なぜ現場レベルの連携は進まなかったのか？ 各職種における課題の層構造と『場』

抱えている
連携課題

病院の課題



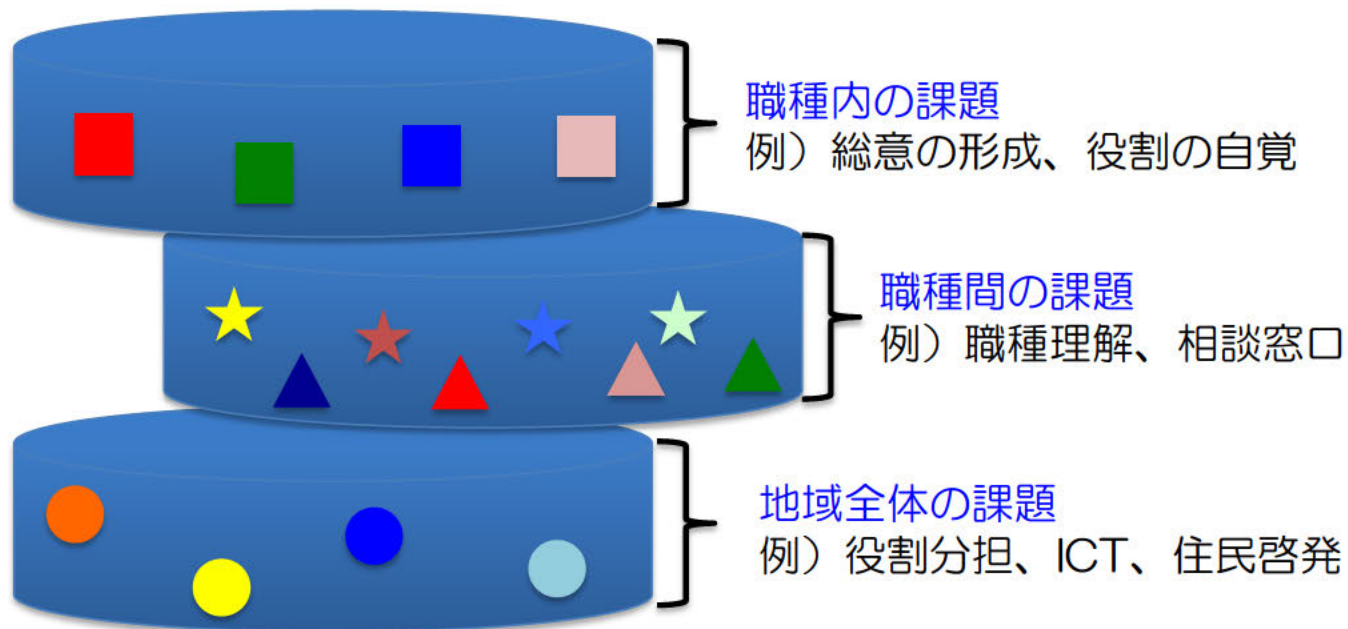
薬局の課題



ケアマネの課題



施設の課題



- 層の異なる課題を同一の場で解決することは困難
- 各層に内在する多様な連携ニーズを満たす『場』の設定と管理
- 『場』から吸い上げられる課題の精査・管理
- 地域包括システム構築全体への連続性と整合性が必要

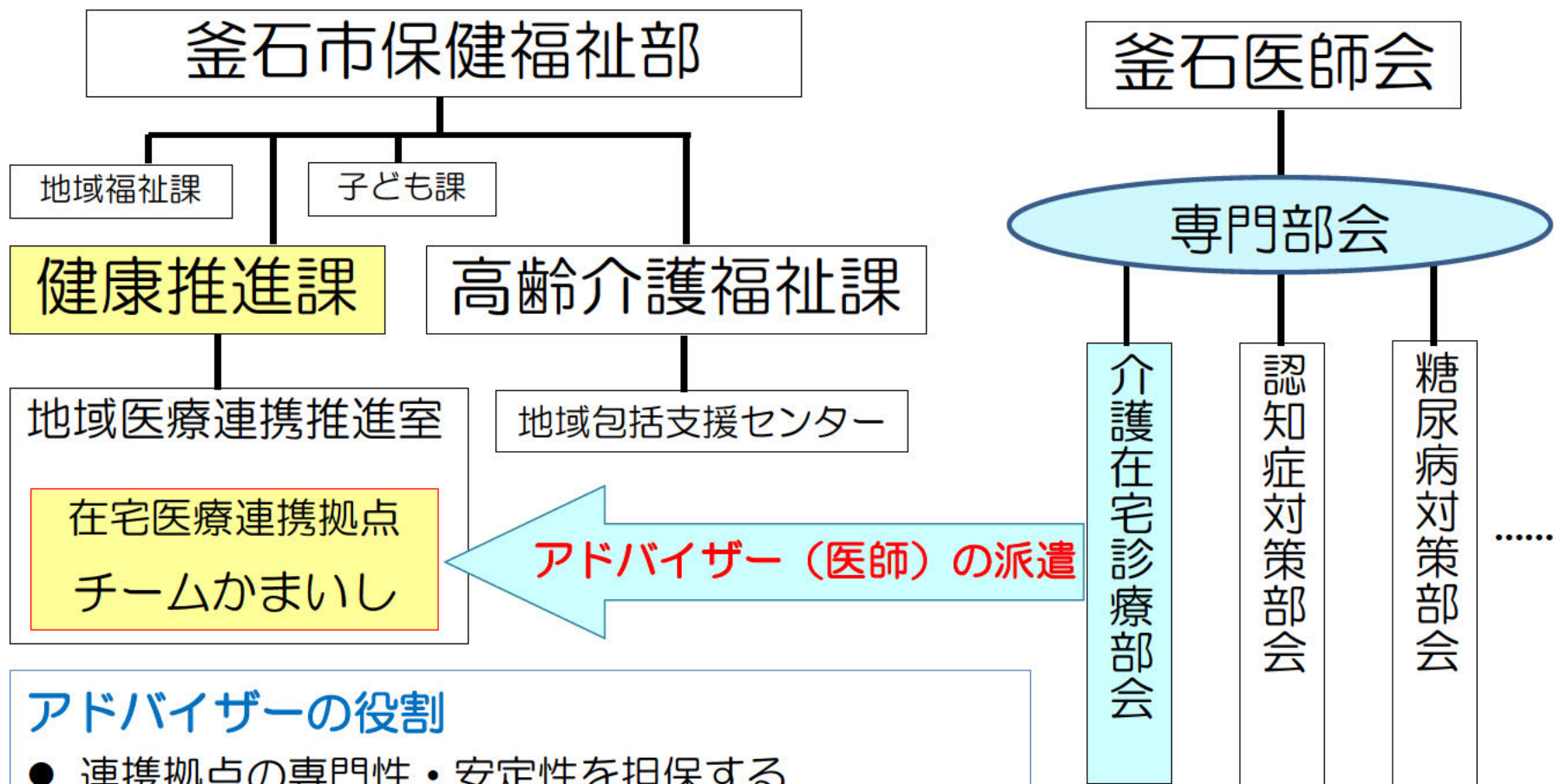
在宅医療連携拠点：チームかまいし

平成24年7月1日：厚生労働省モデル事業「在宅医療連携拠点事業」の採択を契機として釜石医師会との連携により釜石市が設置。以降財源を変えながら5年目となる。

<特徴>

- 釜石市保健福祉部内の専門部署
- 医師会と行政との協働事業
 - アドバイザーとして医師が派遣されている
 - 双方が得意分野を補完し合いながら運営されている
- 連携をコーディネートする専門職種の配置

釜石医師会と釜石市



アドバイザーの役割

- 連携拠点の専門性・安定性を担保する
- 連携コーディネーターの育成とサポート
- 関連職能団体とのパイプ役
- 専門的・実践的・研修的連携手法の導入、…など

医師会

事業拠点の構築・運営に関わる全面的なバックアップ

1) チームビルディング

チームかまいしと在宅医療連携拠点協議会

釜石市保健福祉部
健康推進課 地域医療連携推進室
在宅医療連携拠点
チームかまいし



平成28年7月



チームかまいしの事業計画・成果の承認・評価機関であり、その活動内容や成果物に地域全体のコンセンサスが形成される場。事業拠点が孤立しない建てつけ

【構成団体】

岩手県、釜石保健所、釜石市、大槌町、釜石医師会、釜石歯科医師会、釜石薬剤師会、圏域内の全病院、介護関連職能団体、他

8つの事業項目（タスク）へのアプローチ①

<チームかまいしのタスクに対する考え方>

- 『ニーズ中心主義』：タスクにせよメニューにせよニーズの確認をしてから実施（良かれと思ってやらない）

例

（ア）地域の医療・介護資源の把握：いわゆる「資源マップ」

- 事業拠点には**必須**、医療介護関係者からは「**あれば使うかも**」、住民のニーズは**聞いたことがない**（聞いたことがないだけで「あるかも」とは考えない）
 - 事業拠点が使えるものを作り、ホームページで見られるようにしておき、ニーズが出てきたらまた考える。

例

（カ）医療・介護関係者の研修

- 各職能団体から「このような専門家を呼んで多職種に聞いてほしい」というニーズを**サポートする**スタンスで、各職種の自律性を促す。良かれと思って事業拠点が呼んだりしない。
 - 共催・後援、アドバイス、広報・周知、会場準備、アンケート、反省会など



8つの事業項目（タスク）へのアプローチ②

- 1) どのタスクからやるか？
 - タスクの優先順位
- 2) 個々のタスクのメニュー
 - 何をやるか？
 - どこまでやるか？

(イ) 在宅医療・介護連携の課題の抽出と対応策の検討

- 課題抽出と解決策の検討の中で出てきたニーズが、その他のタスクのメニューを満たしてゆく。
- タスク間をまたがるニーズも多い

(ア) 在宅医療・介護の資源の把握

(ウ) 切れ目のない在宅医療と在宅介護の提供体制の構築推進

(エ) 医療介護関係者の情報共有の支援

(オ) 在宅医療・介護連携に関する相談支援

(カ) 医療・介護関係者の研修

(キ) 地域住民への普及啓発

(ク) 在宅医療・介護連携に関する関係市区町村の連携

2) 具体的な連携手法とその実践例

平成27年度プロジェクトリスト

事業名	カテゴリー	プロジェクト番号	プロジェクト名	
I) 連携基盤形成事業	1) 連携資源	I) -1) -①	①地域の医療・介護資源の把握・更新・開発	
	2) 住民啓発	I) -2) -①	①市民公開講座 (キ)	
		I) -2) -②	②出前講座	
	3) 研修・人材育成 (カ)	I) -3) -①	①従事者研修 (ク)	
		I) -3) -②	②連携コーディネーター研修 (ク)	
	4) 広報	I) -4) -①	①機関誌発行	
		I) -4) -②	②ホームページ・ブログ更新 (ア)(キ)	
	5) 情報連携ツールの活用 (エ)	I) -5) -①	①拠点-職種間連絡ツールの活用	
		I) -5) -②	②多職種間情報共有システムの活用推進	
	6) 広域連携	I) -6) -①	①県内連携 (カ)(ク)(ウ)	
		I) -6) -②	②県外連携	
	II) 連携コーディネート事業 (イ)	1) 連携に関わる専門窓口 (オ)	I) -1) -①	①継続
2) 職種間連携コーディネート (ウ)(カ)		II) -2)		
		一次連携	II) -2) -①	①栄養士連携 ②病院連携室連携 (エ)
		二次連携	II) -2) -②	①栄養士歯科連携 ②連携室ケア連携
	三次連携	II) -2) -③	①在宅医療連携体制検討会 ②協議会	
	3) 連携手法	II) -3)	開発・更新	
III) 地域包括ケア関連事業	1) 地域包括ケア推進本部連携	III) -1) -①		
	2) 地域ケア会議連携	III) -2) -①		
IV) 成果管理事業	1) 成果の分析・考察・まとめ (カ)	IV) -1) -①	①プロジェクト報告書 ②事業報告書	
	2) 成果の公開・発表	IV) -2) -①	①成果の公開・発表	
	3) データの管理	IV) -3) -①	①データベース化推進と活用 (オ)	

チームかまいし

多彩な現場レベルの連携企画



同行訪問



出前講座

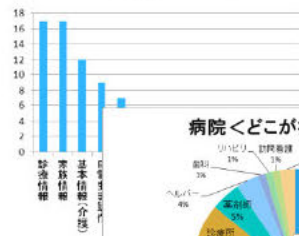


同行訪問

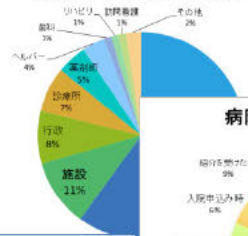


セミナー

病院くどのような情報を必要としているか > n=86



病院くどこが持っている > n=85



病院くどのような場面で > n=85



実施事業の
データ化

広報



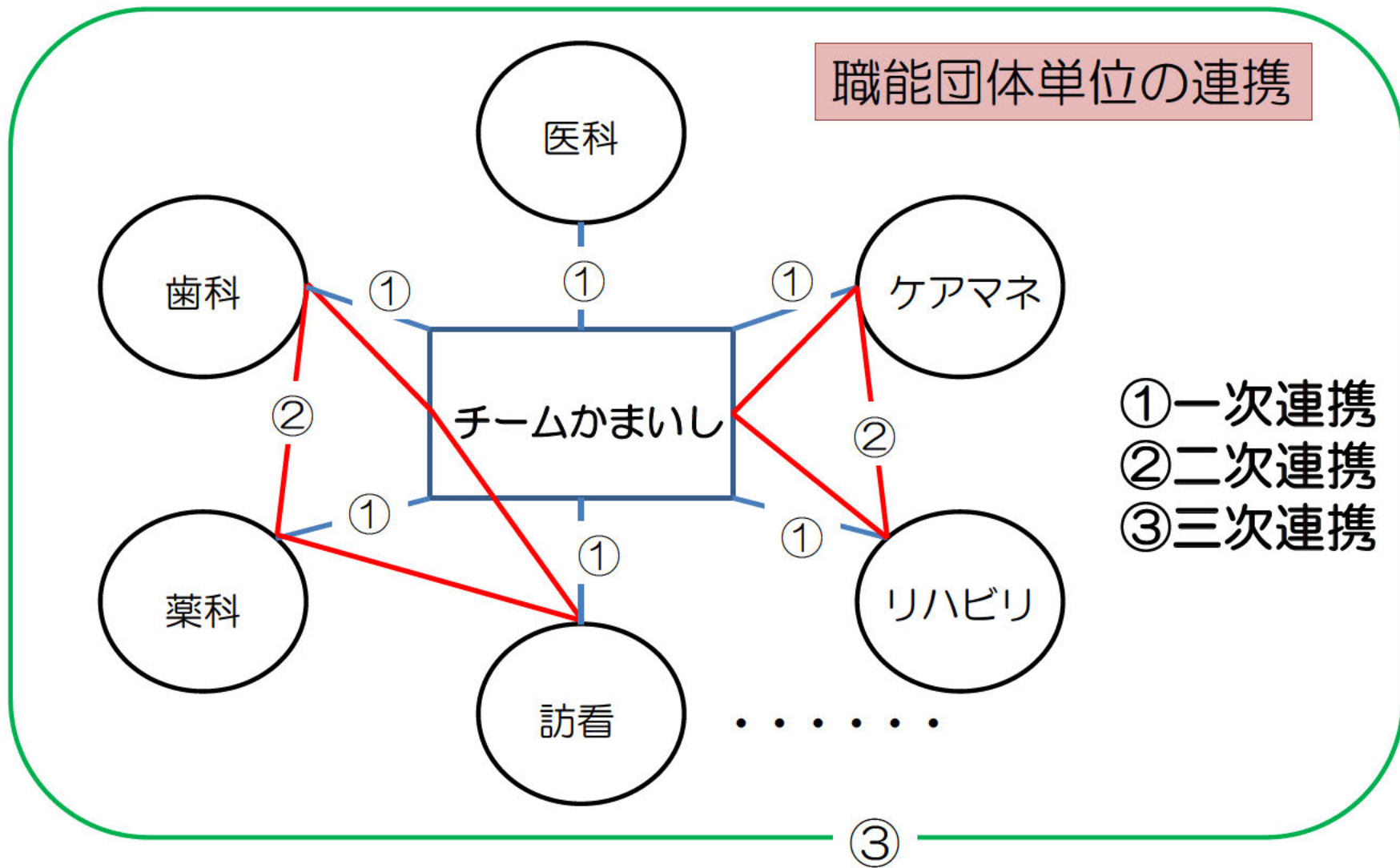
「かまいし・ホホつち医療情報ネットワーク」運用開始

東京医療圏の病院と診療所をつなぐ「かまいし・ホホつち医療情報ネットワーク」が1月1日、本格的に運用を開始しました。本ネットワークは、14の医療機関が参加し、18の医療機関とネットワークを構築し、患者の必要な医療情報を迅速に提供するためのネットワークです。本ネットワークの運用開始を記念して、各医療機関の医師と看護師が一堂に会し、本ネットワークの運用開始を祝うセミナーを開催しました。セミナーには、本ネットワークの概要、運用開始の意義、患者の利益につながる点などが説明されました。本ネットワークは、今後もさらなる発展を遂げる予定です。より良い医療を提供するために、今後も取り組んでまいります。



チームかまいし

連携コーディネートの中心手法：連携の段階と役割



一次連携

チームかまいしと一職種による**詳細な課題の抽出**



歯科連携（一次）（10）



薬科連携（一次）（10）



ケアマネ連携（一次）



「釜石リハ士会」の設立を支援

リハ連携（一次）



一次連携

チームかまいしと一職種による**詳細な課題の抽出**



栄養士連携（一次）



地域包括支援センター連携（一次）



訪問看護連携（一次）



急性期病院

医師



慢性期病院

医師

病院連携室連携（一次）

アドバイザーには連携拠点の医療的専門性を担保する役割がある

一次連携で抽出された課題リスト (実例)

ケアマネジャー

病院

第1回ケアマネ連携に関する打ち合わせ会議 (1次連携)

第1回連携室連携(看護)に関する打ち合わせ会議 (1次連携)

2014/8/8

No	職種	発言者	発言内容	備考
1	ケアマネ		新人ケアマネが言っていたらしい	院内
2	医師		知識不足は	ケアマネ
3	医師		医師との壁	ケアマネ
4	ケアマネ		県立病院から	院内
5	ケアマネ		相談室を通ら	ケアマネ
6	ケアマネ		県病から退院後の施設を探	ケアマネ

一次連携のいいところは他の職種の目を気にせずに思い切り言いたいことが言えること。

役割について病院はわ

職能団体単位で公平な立場で課題を拾い上げること、収集された課題や情報が適正に管理されることなどの役割が拠点には求められる。

13	医師	相手に対して「こうするの	の)に)思い込んでいる。	13	MSW	入院時など、この症状ならこうなりますよ。等経過説明をしているが、あまり効果がない。	ケアマネ
14	ケアマネ	病院側にも患者の生活というものを意識して欲しい(院)	病院側にも患者の生活という			ネは病院にどのような思いがあるのか知りたい	ケアマネ

課題の抽出は比較的容易である。

問題は課題解決の『場』とその手法である

22	医師	組織の強化	思っていると思う。	22	MSW	病棟看護師の教育をどうするか	院内
----	----	-------	-----------	----	-----	----------------	----

二次連携

チームかまいしが仲介する 複数職種による課題の抽出と解決の手法

(イ)

課題抽出・解決



急性期病院医療福祉連携室と釜石地域介護支援専門員連絡協議会との二次連携

テーマ：職種理解／手法：顔合わせ

- それぞれの職種との一次連携で抽出された課題をチームかまいしが論点整理し、テーマと手法を決めて実施
- 主な目的
 - 相互理解の促進
 - 具体的連携阻害要因の解決
 - 職種間のルールやコンセンサスの形成 (ウ) (エ)
- 成果 (切れ目のない) 情報共有
 - 切れ目のない円滑な退院連携

2) 具体的な連携手法とその実践例

二次連携

チームかまいしが仲介する
専門的・実践的な連携手法・研修の導入



課題抽出・解決

同行訪問（歯科）



多彩な二次連携の手法



セミナー

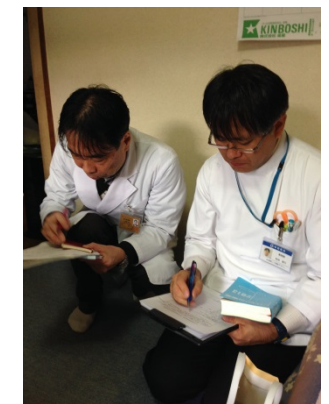


共同研究と学会発表

同行訪問（薬科）



連携成果の発表

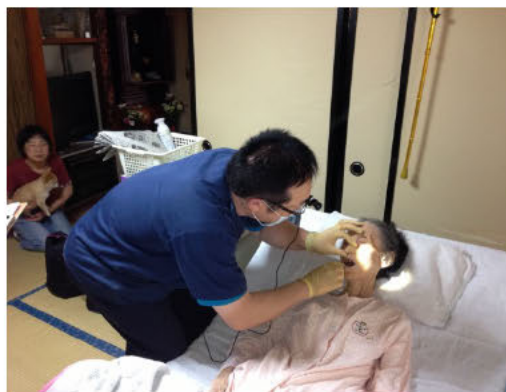


平成25年度医科~~歯科~~同行訪問 テーマ：疾患別

第1回平成25年5月21日
三浦 孝先生
中枢神経系

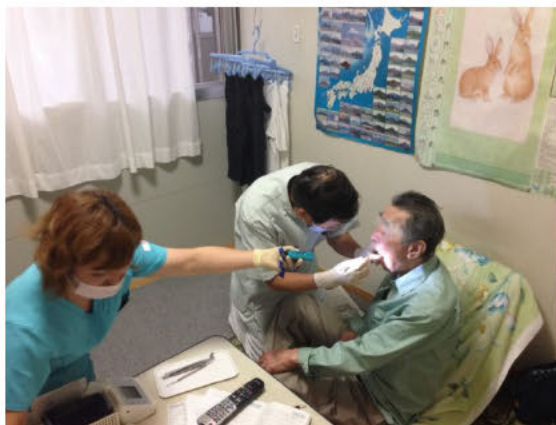
第2回平成25年8月29日
工藤 英明先生
末期癌

第3回平成25年9月26日
久喜 薫子先生
認知症



平成26年度医科~~歯科~~同行訪問 テーマ：生活様式

第4回平成26年9月25日
福成 和幸先生
仮設住宅・独居



第5回平成26年11月11日
鈴木 勝先生
施設・老老介護



2) 具体的な連携手法とその実践例

平成27年度医科~~歯科~~同行訪問

テーマ：診療に医科~~歯科~~バリアをなくす

第6回平成27年12月3日
井上 宏紀先生



第7回平成27年12月10日
平松 浩先生



第8回平成27年12月17日
三浦 孝先生 (2)



第9回平成27年12月25日
早崎 溪先生



医科歯科連携の成果物 在宅療養患者の歯科紹介システム

連携フロー



居宅療養管理指導に係る情報提供書

事業所名 御中
患者様名

平成 年 月 日

ご依頼いただいた
歯科往診依頼書 (宛先: 釜石歯科医師会 FAX 0193-23-2223)

ご依頼元 事業所名
氏名
電話番号 FAX

フリガナ
患者様名
住所(自宅・施設)

ご依頼内容
歯が痛い 歯
入れ歯が合わない 口
その他()

口腔ケアの必
以下、お分かりになる範囲

介護サービス
全身疾患 1)
2)
3)
認知症 有
特記事項

報告日 平
歯科医院名:

承諾書 ご依頼に關す

歯科治療依頼スクリーニング
[歯科治療の必要性のご判断にご利用ください]

- 歯が痛い
- 冷たいものや熱いものがしみる
- 歯に穴があいている、黒くなっている
- 被せものや詰めものがとれている
- 歯ぐきから出血したり歯ぐきが腫れている
- 歯がぐらぐら動く
- 口臭がひどい
- お口の中に白い斑点がある。赤くただれている
- 入れ歯がない、使用していない
- 入れ歯を入れると痛い
- 入れ歯が落ちたり、はずれやすい
- 入れ歯が欠けたり、こわれている
- 入れ歯のパネのかかる歯が抜けている、欠けている
- 入れ歯のあたる歯ぐきや舌や頬の粘膜に傷ができています

(工)
(情報共有)

平成25年度医科薬科同行訪問 テーマ：残薬

第1回平成25年10月17日
金澤 英樹先生



第2回平成25年11月28日
小笠原 修二先生 松田 智行先生



在宅薬薬連携も実現



第3回平成25年12月12日
宮澤 倫子先生



課題認識のプロセスの入り口として残薬の確認は重要である。「飲めない」にしても「飲まない」にしても、薬が残ってしまう背景には様々な課題が隠れているからである。

2) 具体的な連携手法とその実践例

平成26年度医科薬科同行訪問 テーマ：服薬指導

第4回平成26年10月2日
石田 昌玄先生



第5回平成26年10月9日
町田 和敏先生



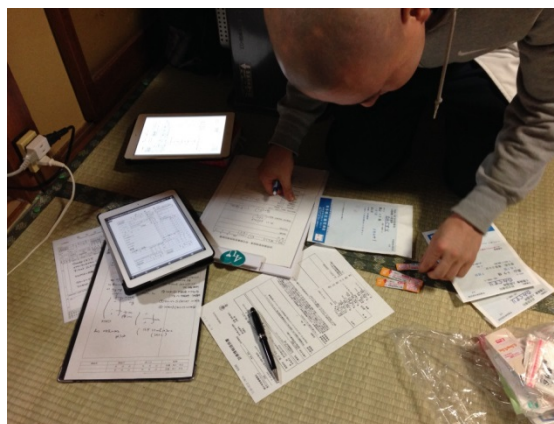
施設の薬剤管理室見学



第6回平成26年10月16日
佐々木 千穂先生



第7回平成26年10月23日
佐藤 拓洋先生



退院日同行訪問

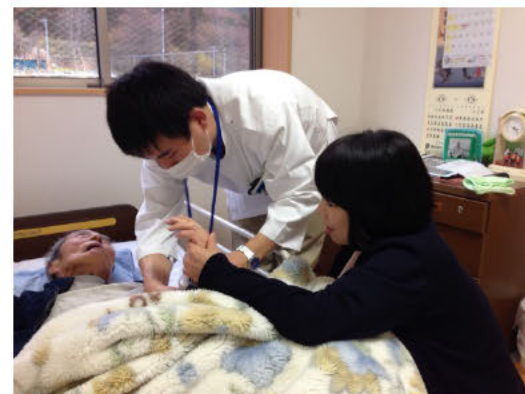
退院日は入院前の残薬と退院時処方混在し、服薬に関してはリスクの高いイベント日である。

平成27年度医科薬科同行訪問 テーマ：フィジカルアセスメント

第8回平成27年11月5日
町田 理美先生



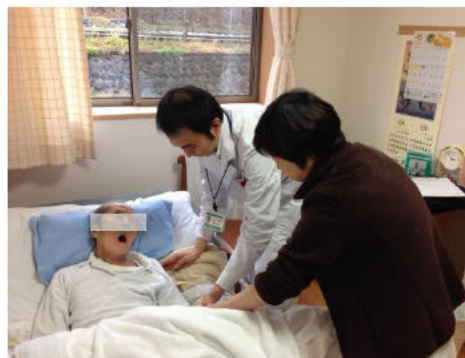
第9回平成27年11月12日
八木 章雄先生



第10回平成27年11月19日
小林 正樹先生



第11回平成27年11月26日
袴田 達也先生



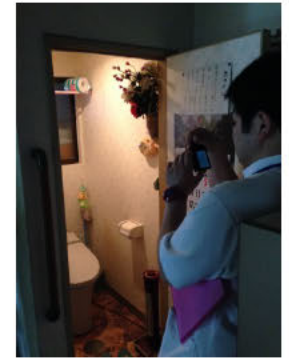
2) 具体的な連携手法とその実践例

二次連携の
新たな段階

「連携基盤（システム）の構築」から 「個別的包括的ケアへの応用」の段階へ



診療報酬に応じた連携で動いてみる
(例『退院前訪問指導料（580点）』)



『システム』から『ケア』へ

『研修』から『本番』へ

同行訪問という二次連携の手法について

- 『在宅臨床協働』がもたらすもの
 - 多職種間の相互理解は臨床の現場でより促進され、多領域の各論研修機能を包含している。
 - 在宅臨床協働では各職種の引き出された専門性が体感でき（一目瞭然であり）、役割分担のイメージが鮮明になる。
 - 同行訪問は医療連携における課題抽出・解決の一手法であるが、この連携には何が必要かについて、その場で意見交換や具体的提案が生まれる。
 - 構築された多職種連携を患者個人レベルのケアに落とし込んでゆく入り口として有用な手法である。
 - 真の『顔の見える連携』はこの段階あたりにあるのではないか。

同行訪問は課題抽出・解決の場（イ）であり、研修の場（カ）であり、情報共有の場（キ）であり、切れ目のない連携構築の場（ク）を創出する。

三次連携

地域全体に関わる課題の解決・コンセンサス形成の場



釜石・大槌地域
在宅医療連携体制検討会

病病・病診連携や役割分担、ICT、住民啓発活動など職種間で解決困難な課題を抽出し、解決する場に位置付け直した。

チームかまいしの活動自体を評価するし、チームかまいしの活動成果を地域全体にフィードバックする場

在宅医療連携拠点事業協議会



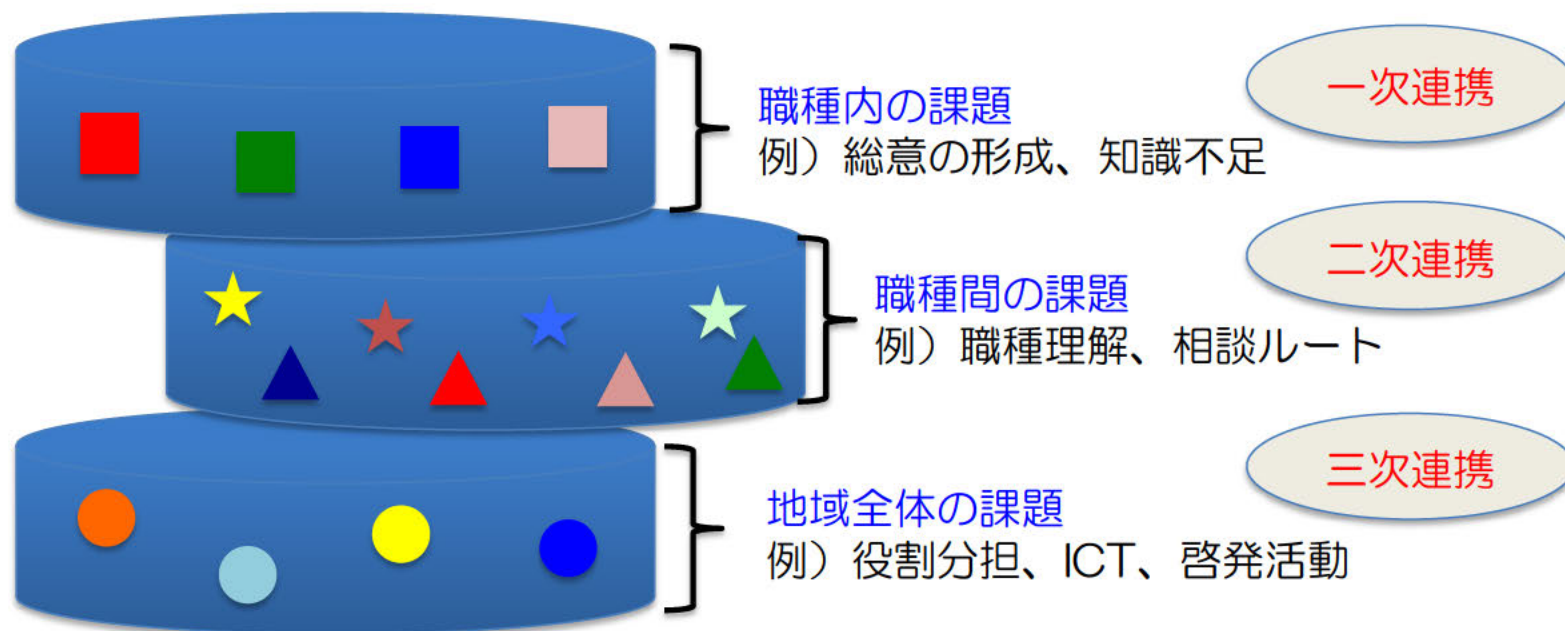
2) 具体的な連携手法とその実践例

三次連携課題を一次連携と二次連携で支える 医療機関の役割分担を事業拠点が連携室連携でサポート



2) 具体的な連携手法とその実践例

チームかまいしのコーディネート機能のまとめ 課題の抽出・解決の『場』と『手法』を提供



- 事業拠点の業務を各職種の専門性が発揮できる環境や関係性を整えることと捉え、その足がかりを各職種のニーズに置いている。
- **実践的・協働的な現場（臨床）レベルの連携が実現する場と手法**を提供し、職種間の自律（立）的・発展的連携をサポートしている。
- タスク（イ）を展開し、その成果としてその他のタスクを実現している。

ご清聴ありがとうございました

